

## 平成27年度第2回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 平成28年2月22日(月) 14時から
- 開催場所 三次市防災センター 1階会議室
- 出席者委員 添田龍彦・岩本智健・宗清弘樹・湯藤浩康・箕田英紀・重信富子  
山岡幸子
- 欠席者委員 元泉園子・福永清三・前田茂・岩崎積
- 説明員 (株)三次ケーブルビジョン  
田坂代表取締役社長・新宅専務取締役・山光管理部長・野田企画部長  
林制作技術部長・津田制作課長・幸住管理課長・坪井技術課長・向井制作課員
- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 副会長挨拶 体調不良のため欠席した元泉会長に代わって、添田副会長が司会進行をする  
と挨拶する。
- 3 審 議 審議に先立ち、制作課長が「墨にかけた青春 ～日彰館高校 書道部の挑戦」  
について、資料に基づき作品の意図、ねらい、趣旨を説明する。(今回は  
事前にDVDを送付した)
- 副会長(司会) 視聴いただいたDVDの内容について、忌憚のない意見を願います。
- 委 員 日頃ピオネットの番組内では、体育系のクラブがよく取り上げられているが、  
地味なイメージのある文化系のクラブに、今回スポットが当てられたことで、  
文科系のクラブの高校生は少し胸を張れたかと思う。  
NHKのドキュメンタリーを見ているような雰囲気でしたし、高校生の清々し  
い純粋な姿が随所に現れていた。
- 委 員 番組名にあるように、「挑戦」する姿が十分に伝わってきた。体育系では出せ  
ない、文科系のクラブのいいところが表に出ていた。  
ただ、少し学校紹介があれば良かったと思う。番組全体は、引き込まれて見  
た。
- 委 員 文化系のクラブということで、派手さはないが、「挑戦する」という躍動感の

ある番組に仕上がっていた。書道パフォーマンスのテーマを「宇宙」としており、無限に広がる可能性に向かって、高校生達が夢を描いて挑戦しているという、テーマにぴったりの内容にまとめられていた。

なぜ「敢闘賞」だったのかが判らなかった。講評の場面があったら良かったのではないか。

委員 実は、甲奴の会場に飾ってある書道作品を見た。その素晴らしい作品の裏舞台が、今回の DVD でしっかり見られた。高校生が真剣に一つのことに挑戦している姿が表現してあり非常に良かった。

委員 書道パフォーマンスがあることは知っていたが、見たことはなかった。この DVD は見ごたえのある、非常に元気が出る映像だった。この高校生達の同世代の若者に見せたいとも思うが、60代から80代の女性が所属する、私たちの女性会の会員にも見せたいと思った。自然体で表現してあり大変元気が出る内容だった。

委員 大会当日の2週間前から始まり、2日前、当日の発表1時間前、30分前、本番と続き、その後生徒たちがどんな思いをしたか、さらに後日の活動の様子が日にちを追って編集されていて、見るものにわかりやすい構成になっていた。

作品の中の言葉や文言の意味、この言葉を選んだ生徒たちの思いを紹介してあればよかったと思った。

女子生徒が多い中で、男子生徒が一人いた。生徒たちを「彼女たち」という表現が適切なのかと少し感じた。

日彰館高校は敢闘賞だったが、大賞と敢闘賞の違いは何であったのかが知りたかった。

副会長（司会） 番組の説明にもあったように、練習時から出番直前までの経過の中で、生徒たちの心の動きが手に取るように伝わってきた。他の委員さんが言われたように、私もこの番組を見ていて、引き込まれるような感じを受けた。作品の中心に「舞」という字を書き上げた時には感動を覚えた。

結果発表の時に、「敢闘賞」と言われて、生徒たちが顔を見合わせ、悔しそうな表情だったが、その後のインタビューで「これを糧に今後の成長に繋げていきたい」と話していた。結果は残念だったが、そういう言葉が出るということに、これからの成長に期待できると思った。

この番組のタイトルは非常に良いと思った。番組コンクールにエントリーさ

れているとのことだが、最優秀賞になるのではないかと期待する。

9名の部員のなかに、女子生徒が8名で男子生徒が1名いて、「彼女たち」という表現はどうかという意見があったが、会社としてはどのように考えて表現したのか。

社 側 番組のナレーションで、内容全部を紹介しきってしまうと文言が長くなってしまふ。省略したほうが、聞き手に気持ちよく親しみやすい場合がある。  
始めの場面では、女性の部長・副部長の紹介に焦点を当てるという意図で、「彼女たち」という表現をした。事前の取材で、男子生徒が1名いることがわかったので、そこにもスポットを当てて、女性部員の中にいる、この男子生徒の紹介も行なった。

副会長(司会) 詳しく説明していただいて、ご理解いただけたかと思う。  
もう1点、表彰の場面で、日彰館高校と他の学校との差が何だったのだろうか  
と、気になった。番組の時間的な制約の中で、放送できなかったのかと思うが  
できれば聞かせてほしい。

社 側 実際のところ、取材していた我々も、最後に学校名を呼ばれると思っていた  
のに「敢闘賞」と発表されて、驚いた。主催者や審査員から、パフォーマンス  
の後に全体的な講評はあったが、どうして大賞だったのか、敢闘賞だったのか  
という明確な差についての発表はされなかった。  
彼女たちの心情をどう表現したらよかったのか、主催者側にもう一歩踏み込  
んでインタビューした方が良かったのかと反省している。

副会長(司会) 地元の身びいきで、最後に呼ばれると期待していたのに、早く呼ばれて残念  
に思った。ほかに、意見はないだろうか。

委 員 生徒たちは、最後に呼ばれると思っていたのが敢闘賞という結果になり、「何  
故?」というささやきが聞こえるような映像があった。彼女たちなりに、他校と  
比べてどこが悪かったのか、こうするべきだったという反省も持っていたと思う。  
主催者がこの番組を見られたら、主催者側の意見として、伝えるものがあると思  
う。来年に向けての参考にしてほしい。

副会長(司会) 生徒たちの悔しさを受け止めて、先生が最後に生徒たちに語っていた場面が  
あったが、そこも感動的だった。

委 員 最後に、仕上がった作品が大きく映し出されていた。練習の時のものに比べ

て、私たちが見ても本当に一番良いものに出来上がっていた。生徒たちは、力を出し切ったと語っていたし、次回へのやる気が見て取れると思った。

委員 三次市福祉保健センターの吹き抜けに掲げてある作品は、この時のものなのか。現物を見て、思っていた以上に大きくて驚いた。

社側 それは、市民ホールきりりで大大会の2週間前にあった別のイベントで、日彰館高校書道部のメンバーが書いた作品であると聞いている。

委員 ほかの学校との差が、詳しく講評されなかったことに悔しさが残る。

委員 生徒たちの気持ちがよく伝わってきた。結果だけを求めるのではなく、感動を残して終わったのが良かった。審査結果と番組の感動は別物であると思う。次へ繋げようという構成が良かった。

委員 見る側としては、「何故敢闘賞だったのか。他校との違いは何だったのか」と思ってしまうが、生徒たちは他校の作品を見て、自分たちとの差をきっと感じていたと思う。次に向けて、こうしようという思いを掴んだと思う。

委員 生徒たちが思い立って、顔にお揃いのマークを描いたシーンがあった。心を一つにする決意の表れが出ていて、感動的だった。

委員 結果は最優秀賞ではなかったが、素晴らしい敢闘賞だった。見る者に感動を与えた。この番組が、コンクールにエントリーされているとのことだが、是非最優秀賞を取っていただきたい。

社側 こういう長尺のドキュメンタリー番組は、当社にとって初めての試みであり、どういうものに仕上がるか楽しみにしていた。作品を見て、スタッフの意気込みや視点の持ち方にいいものがあったと思う。青春の一コマを切り取った映像であり、「挑戦」という勝ち負けを抜きにして無心に努力する姿には、非常に素晴らしいものがある。スタッフは途中まで、「最優秀賞になるかもしれない」という思いを持っていたが、実は敢闘賞であった。それ故に余計に、次へのステップが生まれて、素晴らしい中身になったと思う。このような構成ができる力量が、蓄積されていたのだと感じた。皆さんにいただいた意見を今後活かしていくので、これからも期待していただきたい。

副会長（司会） 他の委員さんが言われたように、体育会系のクラブは、見た目にも動きが

あって伝えやすいものがあるが、文科系の書道部を通して、ここまで見る人に感動を与える作品に仕上がっていたことは絶賛していると思う。大方の委員さんもそのような意見を持たれていた。

皆さんの意見が出尽くしたようだ。本日も貴重なご意見をいただき、感謝する。これで放送番組審議会を終了する。

- 4 閉 会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録を HP に掲載することを伝え、閉会した。